

はじめに

桜は様々な形で日本の文化や暮らしと深く関わり、古来より日本人に愛されてきました。特に江戸時代の元禄以降、それまで特権階級のものだった「お花見」は町民や農民も楽しめるようになり、日本独特のお花見文化が形成されました。

桜という花木を観賞するためには、桜の適材、適所を考えなければいけません。単木で楽しむのか、それとも並木のように列で植えるのか、または群れで植えるのか、植える場所は市街地なのか山間地なのか。また、品種を組み合わせる場合は、開花期や花の色、樹形などの特性を考慮して植える必要があります。

このマニュアルでは、桜を植える計画及び準備段階から始まって、桜の育て方・管理の方法の維持管理について、作業項目ごとに記載しています。また季節ごとに必要な作業が、年間管理表を見ることで分かるようになっていきます。

桜は植えてから5年間の管理が非常に重要です。計画や準備をしっかりと行った上で、その後の5年間の育て方が桜の一生を左右すると言っても過言ではありません。

このマニュアルを参考にいただき、皆さんの植え育てた桜によって、美しく潤いのある、後世に残る名所がつけられることを願ってやみません。

目次

I. 桜の樹齢別年間管理表	1
II. 桜の植え方	
1. 桜を植えるポイント	
1) 成育に適した場所	2
2) 土づくり	3. 4
3) 植える間隔	5
4) 桜の品種	6. 7
2. 苗木の植え方	
1) 苗木の保管	8
2) 苗木の台木と植え方	9
3) 植え穴のつくり方	10. 11
4) 苗木を植える手順	12. 13
5) 支柱	14. 15. 16
III. 桜の育て方	
1) 剪定	17. 18
2) 除草	19
3) 施肥	20
IV. 健康診断	21
V. 病虫害防除	
1) 重要病虫害防除	22. 23. 24
2) 害虫防除	25. 26. 27
3) 病害防除	28. 29.
VI. 鳥獣害防除	
1) ノネズミとノウサギの被害と予防	30
2) ウソの被害と予防	31
3) シカの被害と予防	32

I . 桜の樹齡別年間管理表

I.桜の樹齢別年間管理表

樹齢	月 作業内容	4			5			6			7			8			9		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	計画・準備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	植栽																		
2年～5年	施肥																		
	除草	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	整枝・剪定						■	■											
	害虫防除					■	■			■	■					■	■		
	病害防除								■	■	■	■							
6年以降	施肥																		
	除草	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	整枝・剪定						■	■											
	害虫防除					■	■			■	■					■	■		
	病害防除								■	■	■	■							
	てんぐ巣病																		
	健康診断	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

樹齢	月 作業内容	10			11			12			1			2			3		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	計画・準備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■					
	植栽					■	■								■	■	■	■	
2年～5年	施肥								■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	除草	■	■	■	■	■	■												
	整枝・剪定						■	■	■	■	■	■							
	害虫防除						■	■											
	病害防除																		
6年以降	施肥								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	除草	■	■	■	■	■	■												
	整枝・剪定									■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	害虫防除						■	■											
	病害防除																		
	てんぐ巣病					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	健康診断																		

■ 作業する時期

Ⅱ. 桜の植え方

1. 桜を植えるポイント

1) 成育に適した場所

①日当りを好む

桜は日当りのよい場所を好みます。よく日が当り、まわりに障害がない場所を選びましょう。日陰の場所ではよく育ちません。

②土地を選ぶ

水はけがよく適度に湿り気があり、肥沃な土地を選びます。水捌けの悪い場所、地面が固い場所、養分が少ない場所などでは植える前に十分な土壌改良が必要です。

[土壌改良を行わずに植えた場合]



枝数が少なく、新梢の伸びも悪く、成育はよくありません。

[十分に土壌改良を行って植えた場合]



枝数が多く、新梢の伸びもよく、成育は良好です。

土壌改良による成育の違い
(同じ条件の場所に1年生苗木を植え、3年後の様子)

Ⅱ. 桜の植え方

1. 桜を植えるポイント

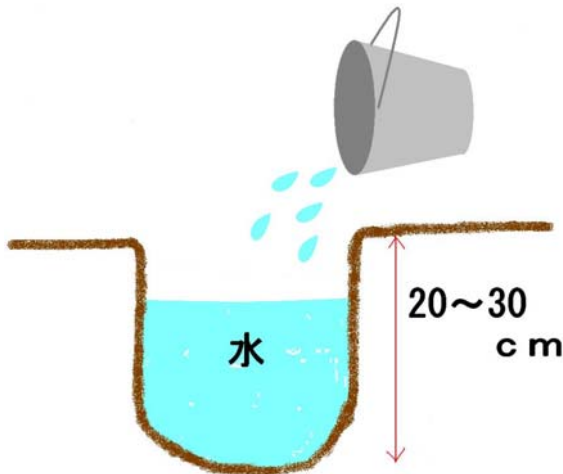
2) 土づくり

土壌改良を必要とする場所と改良方法

①水はけの悪い場所

- ・雨の上がった翌日も水が引かない湿った場所は、過剰な水分が地面にたまって根が腐敗してしまい、桜を植えてもよく育ちません。

○調べ方



桜を植える予定地に 30 cmの穴を掘り、その穴の上まで水を入れます。

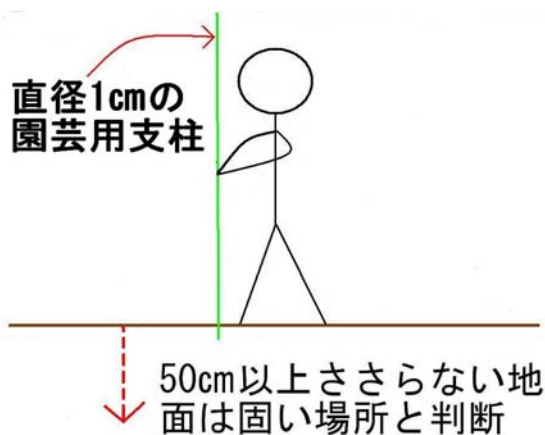
1 時間経過しても穴の中に水がたまっている場合は水はけの悪い場所と考えてよいでしょう。

- 改良方法：暗渠排水を設けるか、盛土をするなど排水対策をとって植える必要があります。

②地面が固い場所

- ・踏み固められたりして地面が固い場所では、根が伸びることが出来ず、桜を植えてもよく育ちません。

○調べ方



直径 1 cmの園芸用支柱を地面と垂直に立て、両手でもって強く地面にさし込みます。

50 cm以上ささらない場所は固い場所と考えてよいでしょう。

- 改良方法：根が伸びることが出来るように直径 2m、深さ 0.7mの範囲を掘って地面をやわらかくしましょう。

③土の養分が少ない場所

・地面が固くないのに生えている草の葉色が黄色味を帯びていたり、草丈が低い場所は、土の養分が不足しており、桜を植えてもよく育ちません。

○改良方法：植えた後での土壌改良は難しいので、植える前に完熟堆肥や肥料を施しましょう。

④マサ土の場所

・関西で多くみられる土に、花崗岩が風化して出来たマサ（真砂）土と呼ばれる土があります。マサ土は養分が少なく、乾燥しやすい性質をもっています。また固められやすいため一度踏み固められると水はけが悪くなります。つまり①水はけが悪く②地面が固い③土の養分が少ない、場所となります。そのため、特に土壌改良を充分に行う必要がありますが、一方で改良効果もよく表れる場所ともいえます。

Ⅱ. 桜の植え方

1. 桜を植えるポイント

Ⅱ. 桜の植え方

1. 桜を植えるポイント

3) 植える間隔

①桜は大木になる

植える苗木は小さくても、将来大きく成長します。



②十分な間隔を開ける



植える間隔が適正であれば1本が大きく枝を広げ、健全に育ち、ボリューム感ができます。一般的には 10m間隔で植えるとよいでしょう。



植える間隔が狭い場合や建築物や他の木との距離が短い場合は過密状態になり、病害虫も発生しやすくなります。

Ⅱ. 桜の植え方

1. 桜を植えるポイント

4) 桜の品種

桜には開花期、木の大きさ、花色などが異なる様々な品種があります。植える場所や観賞したい時期など、どのような名所をつくるのか事前によく検討して、それに適した品種をえらぶことが大切です。日本花の会で配布している代表的な品種を紹介します。

○ソメイヨシノの前に花を咲かせる品種

大漁桜

タイリョウザクラ



開花:3月上旬
花色:淡紅色
花型:一重咲き
樹形:傘状

<特徴>

- ・てんぐ巣病にかかりにくい
- ・樹勢は強健であり、花着きも良い
- ・公園などに適する

越の彼岸

コシノヒガン



開花:3月下旬
花色:淡紅色
花型:一重咲き
樹形:盃状

<特徴>

- ・ソメイヨシノのように葉が開く前に花を咲かせる
- ・街路に適する。

○ソメイヨシノ系品種

小松乙女

コマツオトメ



開花:4月上旬
花色:淡紅色
花型:一重咲き
樹形:傘状

<特徴>

- ・ソメイヨシノより3日程度、早く咲き、花は小輪
- ・樹の大きさはソメイヨシノと同じ
- ・公園など広い場所に向く

神代曙

ジンダイアケボノ



開花:4月上旬
花色:淡紅色
花型:一重咲き
樹形:傘状

<特徴>

- ・ソメイヨシノと同時期に開花、花はやや大輪で、色は少し濃い
- ・樹の大きさはソメイヨシノより、やや小型
- ・公園など広い場所に向く

陽春

ヨウシュン



開花:4月上旬
花色:淡紅色
花型:一重咲き
樹形:傘状

<特徴>

- ・ソメイヨシノと同時期に開花、花はやや大輪で、色は同じ
- ・樹の大きさはソメイヨシノとほぼ同じ
- ・公園などの広い場所に向く

○八重桜類-1: ソメイヨシノのすぐ後に開花する品種

思川

オモイガワ



開花:4月上中旬
花色:淡紅色
花型:半八重咲
樹形:傘状

<特徴>

- ・ソメイヨシノにやや遅れて咲く。花着きが良い
- ・公園に適する

八重紅大島

ヤエベニオオシマ



開花:4月上中旬
花色:淡紅色
花型:八重咲
樹形:広卵状

<特徴>

- ・ソメイヨシノにやや遅れて咲く
- ・潮風に抵抗性がある
- ・公園、街路などに向く

○八重桜類-1：ソメイヨシノのすぐ後に開花する品種

一葉
イチヨウ



開花：4月中旬
花色：淡紅色
花型：八重咲
樹形：傘状

<特徴>

- ・樹勢は強健で栽培しやすい
- ・公園に適する

○八重桜類-2：ソメイヨシノが散った後に咲く品種

関山
カンザン



開花：4月下旬
花色：濃紅色
花型：八重咲
樹形：盃状

<特徴>

- ・代表的な八重桜の一つで、花は桜湯によく用いられる
- ・街路、公園に適する

普賢象
フゲンゾウ



開花：4月下旬
花色：淡紅色
花型：八重咲
樹形：傘状

<特徴>

- ・代表的な八重桜の一つで、葉化した2本の雌しべがある
- ・公園に適する

花笠
ハナガサ



開花：4月下旬
花色：淡紅色
花型：八重咲
樹形：傘状

<特徴>

- ・花が大輪で、比較的新しい八重桜
- ・公園に適する

紅華
コウカ

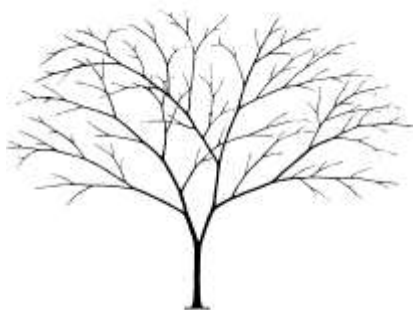


開花：4月下旬
花色：淡紅色
花型：八重咲
樹形：盃状

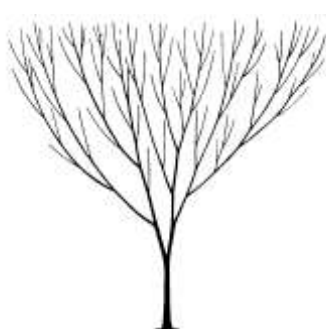
<特徴>

- ・公園、街路に適する

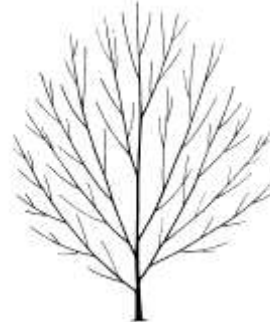
桜の樹形について



傘状



盃状



広卵状

Ⅱ. 桜の植え方

2. 苗木の植え方

1) 苗木の保管

当会から送られた苗木を、すぐに植えられない場合は次のようにして保管してください。

①苗木到着後1週間以内の保管

箱を開封して、中の苗木の根が乾燥している場合は、根を水で湿らせてから再度密閉し、雨のあたらない日陰や温度の上がらない倉庫などで保管します。



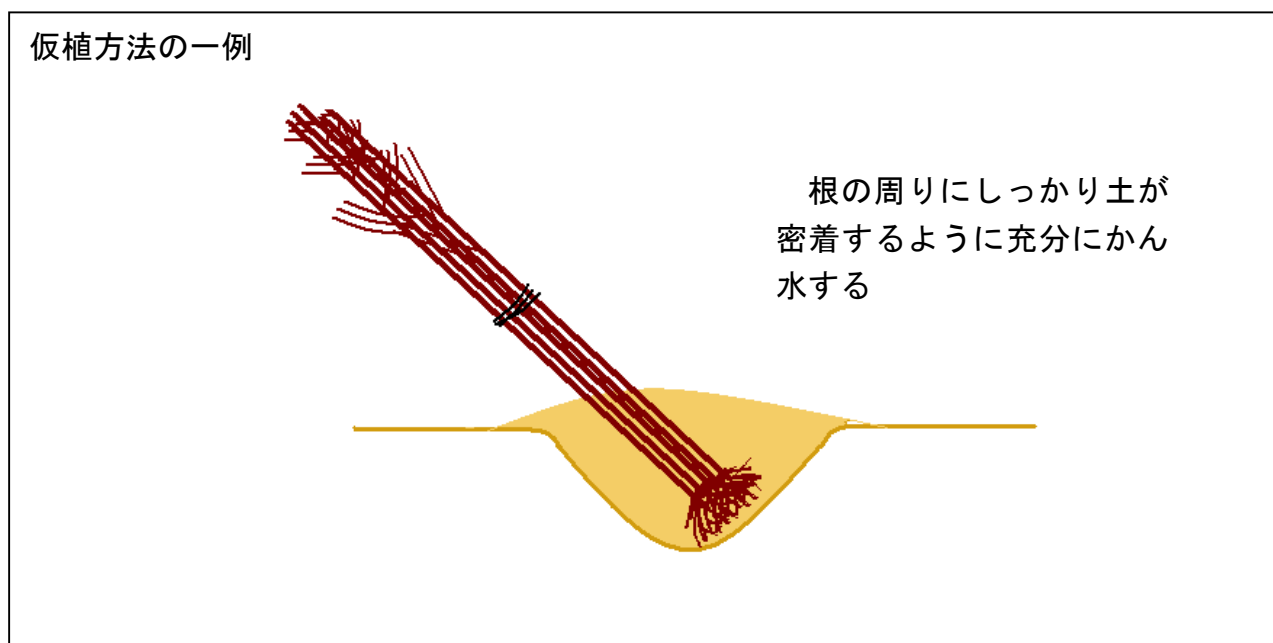
○箱詰でお手元に苗木が届きます



○箱の中の様子

②苗木到着後1週間以上の保管

苗木到着から1週間以上植えられない場合は、根を水に浸した後に下の図のように仮植して下さい。



③保管しておいた苗木を植える前に

植える前に、根を水に3時間～ひと晩程浸してから植えましょう。苗木の活着が良くなります。

Ⅱ. 桜の植え方

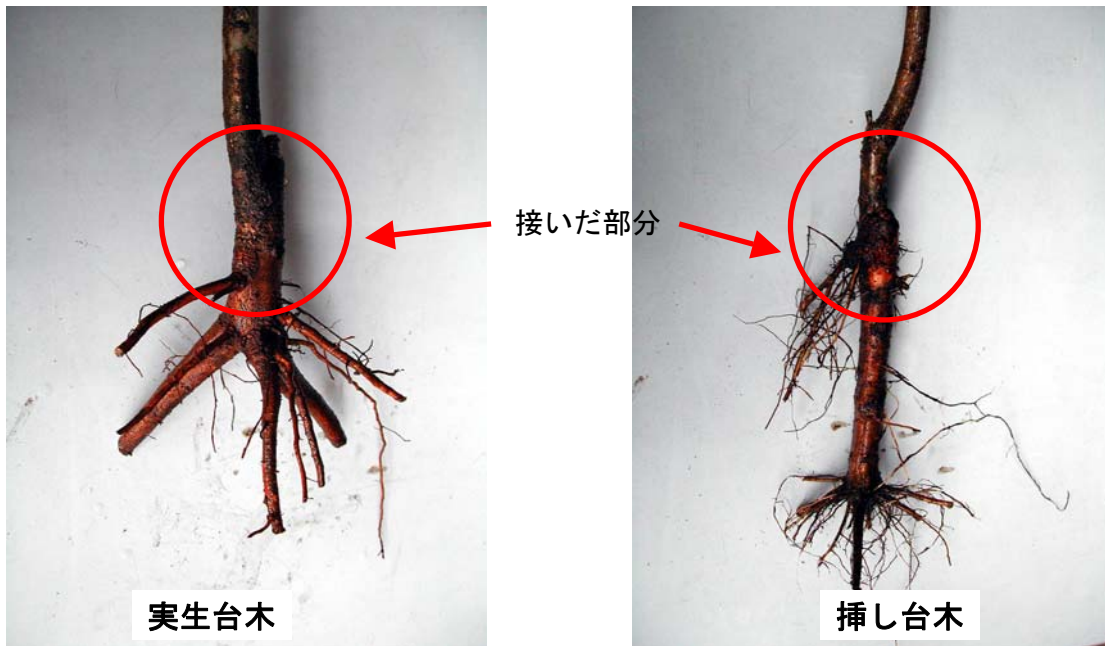
2. 苗木の植え方

2) 台木にあった植え方

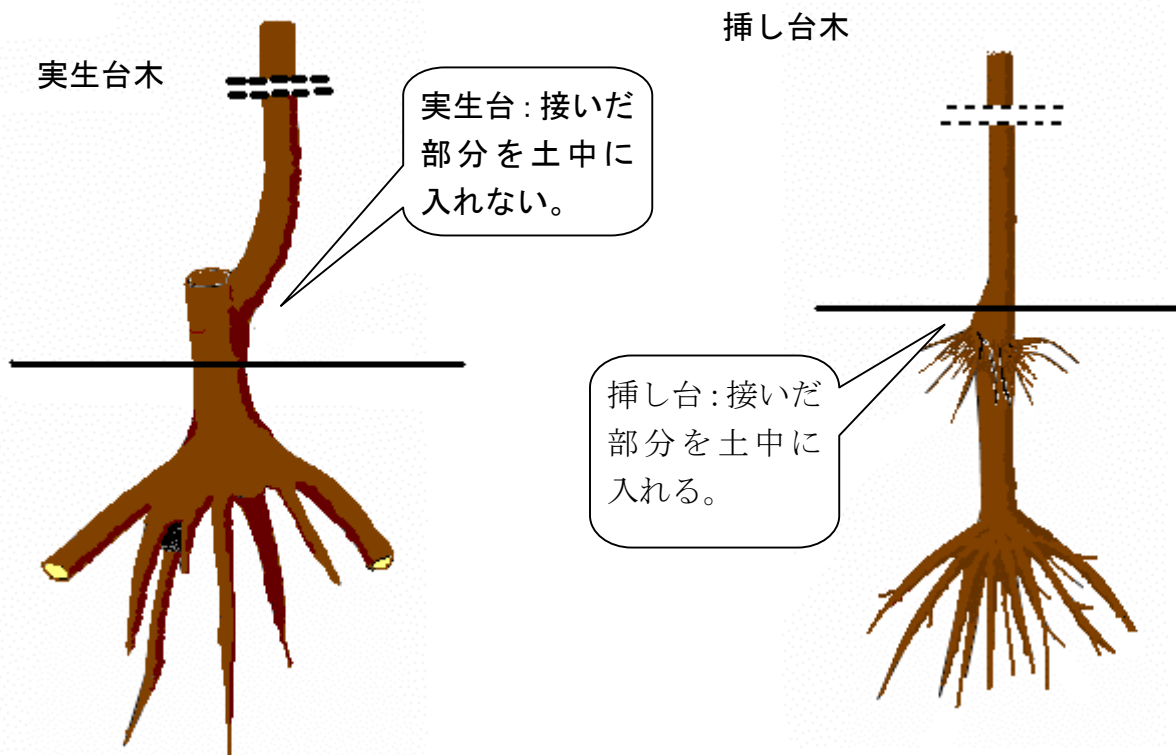
桜の苗木は一般的に接木で生産されます。接木とは台木（根となる部分）に増やしたい桜の芽や枝を接いで増殖する方法です。台木には種から増やした実生台と挿し木から増やした挿し台が使われていて、台木によって植え方が大きく異なります。

苗木の根の形状を下の写真と照らし合わせ、使われている台木にあった植え方を行って下さい。

①台木による根の違い



②台木による植え方の違い



Ⅱ. 桜の植え方

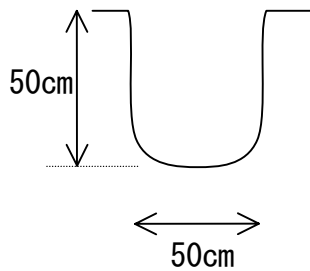
2. 苗木の植え方

3) 植え穴のつくり方

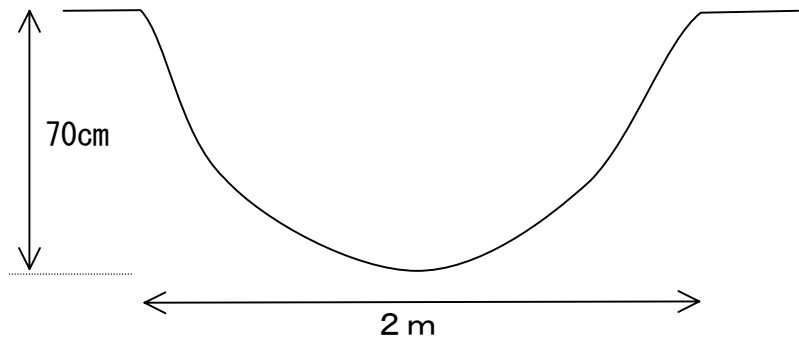
① 植え穴の大きさ

苗木の植え穴は直径、深さ共に約 50cm を目安に掘ってください。水はけの悪い場所、土が固い場所、土の養分が少ない場所、マサ土の場所など、土壌改良が必要な場所は、直径 2 m、深さ 70cm 以上掘りましょう。

標準的な場所での植え穴



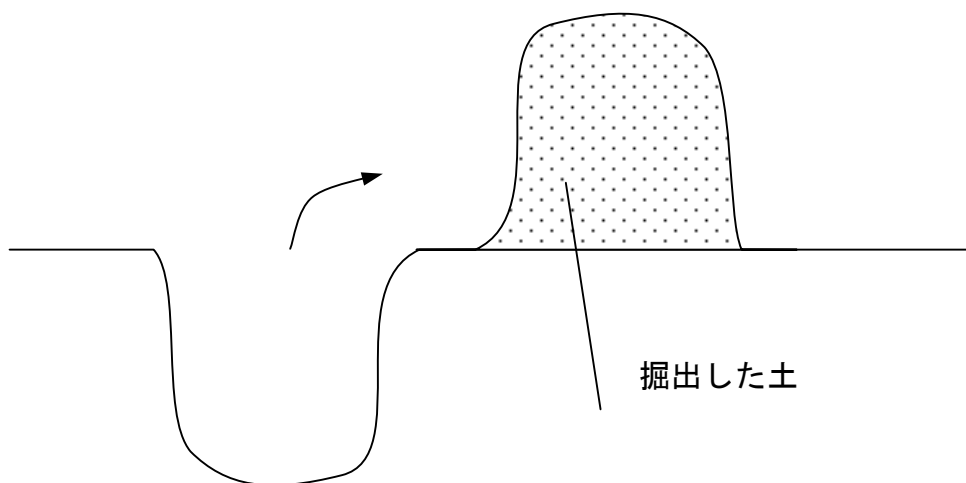
土壌条件の悪い場所での植え穴



② 植付け客土や完熟堆肥の施用方法

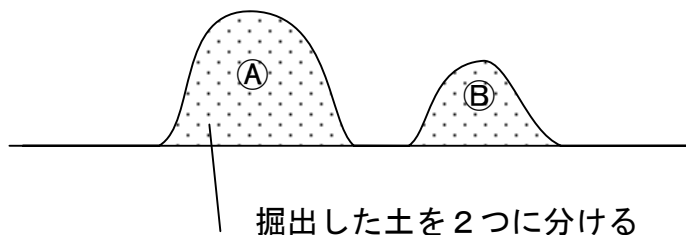
植え穴に良質な客土や完熟堆肥などを入れ、掘り出した土とよく混ぜて埋め戻して下さい。
※土壌改良が必要とされる場所は必ず実施してください。大きな植え穴の場合も下図と同様の要領で行ってください。

1. 植え穴を掘ります。

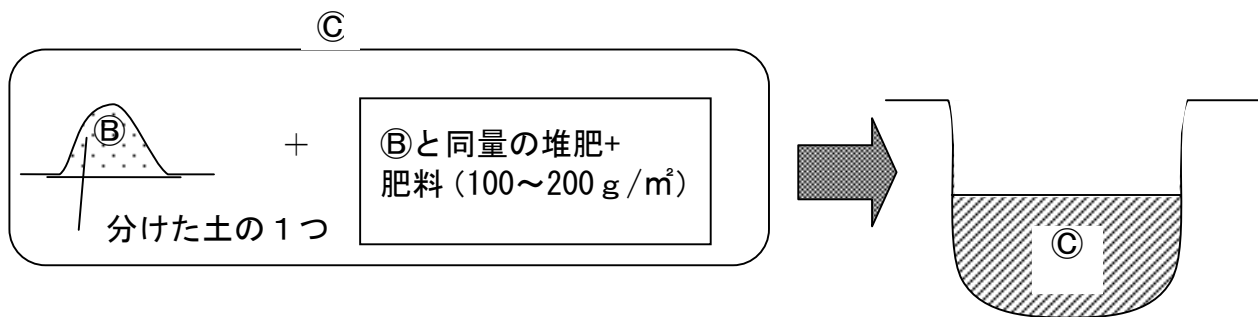


2. 掘り出した土を①=6 : ②=4 ぐらいに分けます。

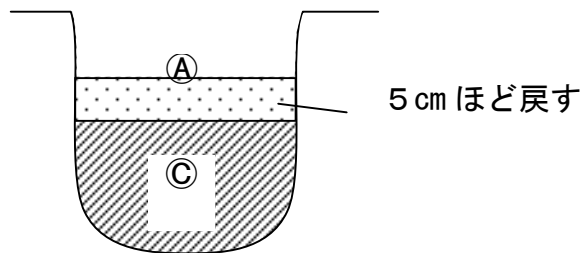
① : ②
6 : 4



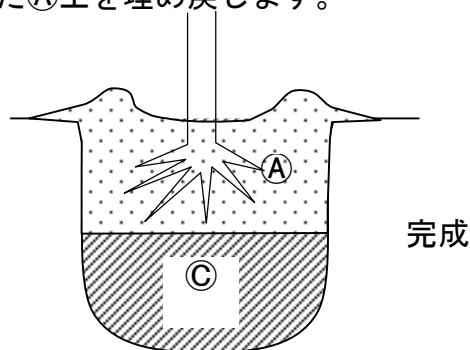
3. 図のように掘り出した②と同量の堆肥と肥料 (N-P-K 10-10-10) 100~200 g/m²位を混ぜ合わせ、掘り出した穴に埋め戻します。



4. ③を埋め戻した上に、約5cm埋まるぐらいの土①を植え穴に戻します。



5. 最後に苗木を立て、掘り出した①土を埋め戻します。



Ⅱ. 桜の植え方

2. 苗木の植え方

4) 実際に植えてみよう

①植える時期

落葉期の11月中旬～12月上旬、または2月下旬～3月中旬。但し、厳寒期は避けましょう。

②植え方の手順

1. 植える苗木を準備する。※植える前に3時間～ひと晩、根を水に浸しましょう。
2. 植え穴を掘る。
3. 植え穴の中心に支柱を立てる。(軽く押し倒れるようではいけません)



4. 植え穴に苗木を入れ、土をかける。



5. 支柱と苗木を結束する。



6. 水鉢を作り、水を入れる。



7. 完成。(根元にワラなどを敷くと乾燥防止になります)

その後の灌水は基本的に必要ありませんが、夏場に乾燥しているときは、1週間おきに夕方、水鉢一杯になるまで水を与えます。



Ⅱ. 桜の植え方

2. 苗木の植え方

5) 支柱

①支柱を行う理由

- ・ 成育を補助する

支柱は、植えたばかりの苗木が強風などでゆすられて倒れてしまったり、せっかく新しく伸びた根を切ってしまうたりしないように、自分自身で支えられるようになるまで成育を補助するものです。

- ・ 樹形をつくる

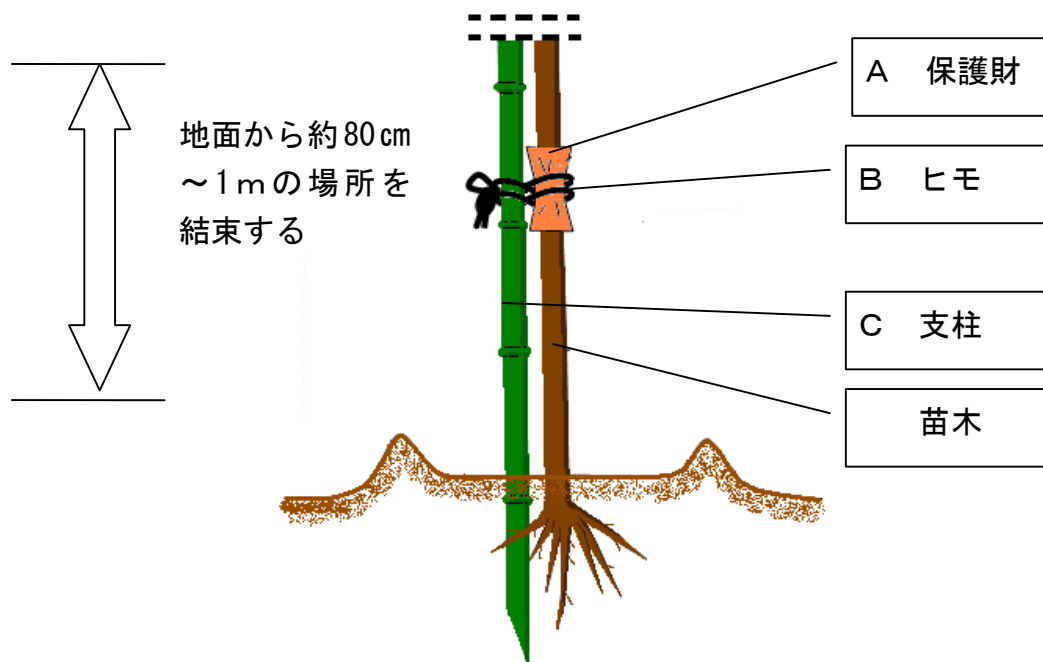
シダレ性の品種や河津桜など枝が横に広がりやすい品種は、支柱を添えて芯となる枝を誘引すると、短期間で樹形を整えることができます。

- ・ 管理上の目印

植付け時の位置を示したり、夏の草刈り時には支柱が目印となり、誤って苗木を傷つけてしまうことが避けられます。

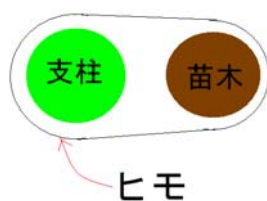
②方法及び材料

支柱に必要な材料は図の箇所に使用します。

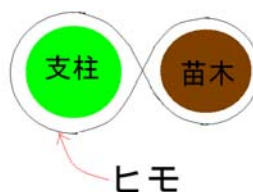


[支柱と苗木の上から見た結束の様子]

①悪い例



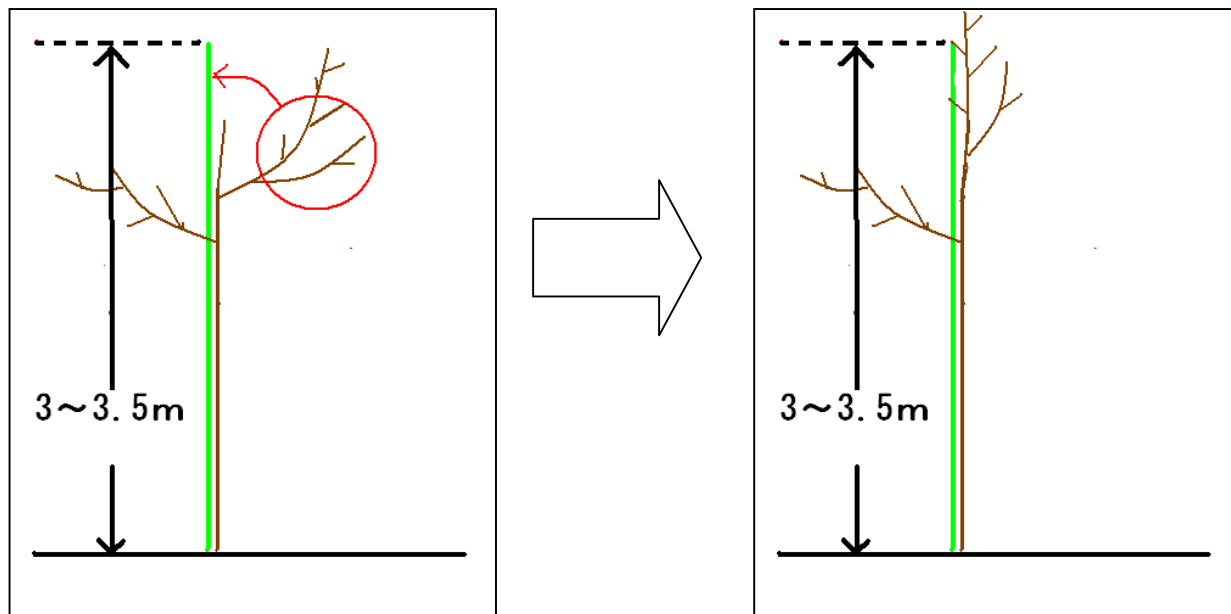
②よい例



①の絵の様に結ぶと苗木と支柱がこすれあって苗木が痛んでしまいますので、②の絵の様に結び目の状態を8の字にヒモを結びましょう。

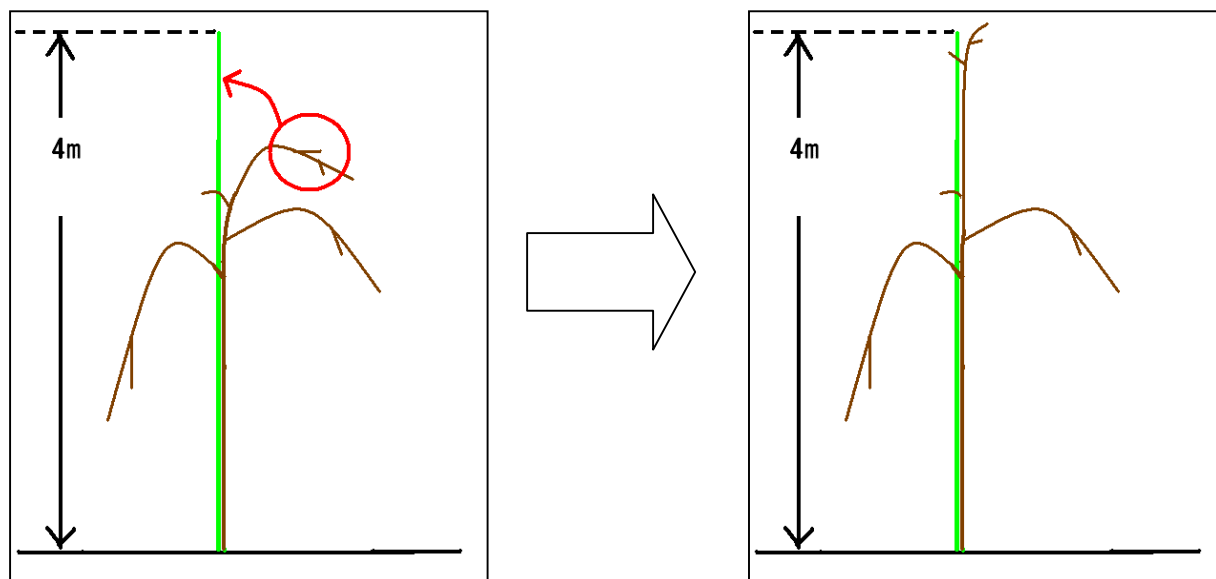
[枝の誘引方法]

○枝が横に広がりやすい品種



河津桜などは、枝が横向き～斜め下向きに伸びるため、樹形を整えるために枝を誘引します。

○シダレ性の品種



シダレ性の品種は名前の通り、下向きに枝が伸びます。そのため、樹形を整えるために、枝を誘引します。

A. 保護材



支柱やヒモと苗木がこすれておこる傷付の防止に杉皮や布などを苗木に巻き保護します。

B. ヒモ



麻縄など1～2年以内で分解するものを使いましょう、ビニールヒモなど腐らないものは不可。

C. 支柱



長さ1.8～2.4mほど、シダレ性品種は4mの竹や園芸用支柱など。

③注意点

桜は8月下旬頃から急激に幹が太るので、時々巡回して、結び目のヒモの食い込みやヒモの緩みすぎを手直しして下さい。

1. ヒモが食い込んでしまった幹



2. ヒモをはずすと幹がくびれてしまっています。台風などの強い風を受けると、ここから折れてしまったり、病害虫が侵入する可能性が高くなります。



Ⅲ. 桜の育て方

Ⅲ. 桜の育て方

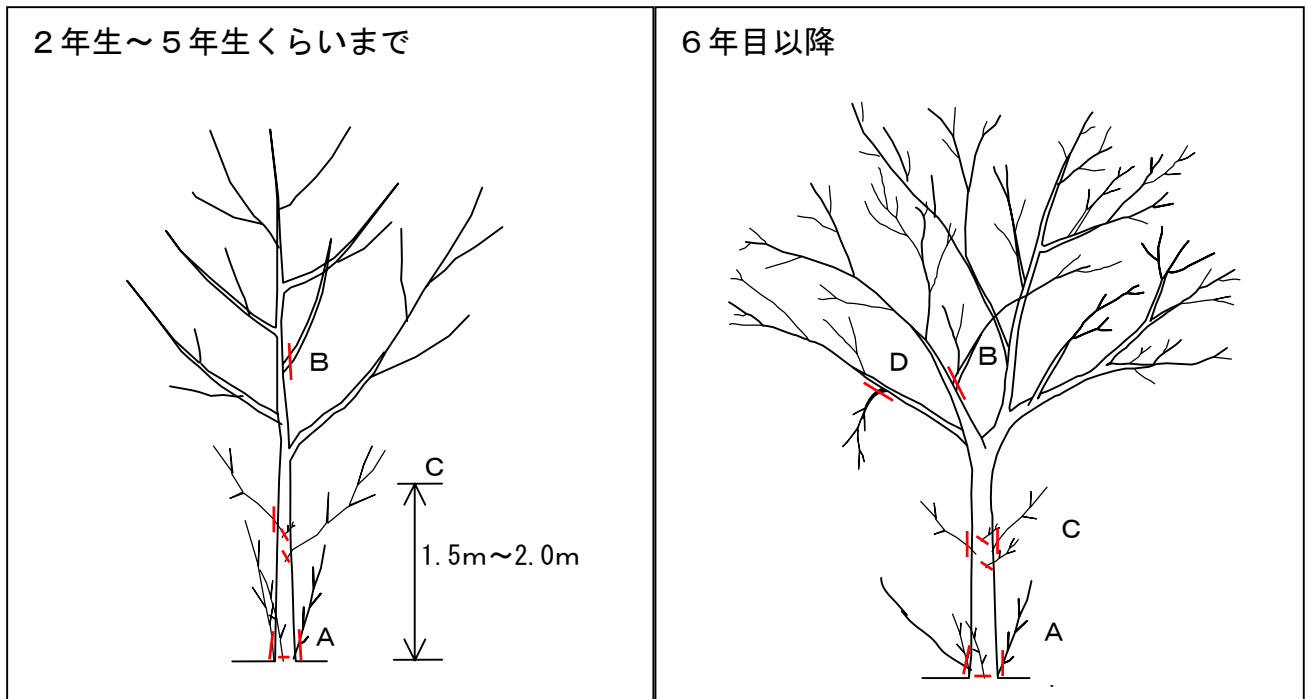
1) 剪定

①剪定の必要性

桜は枝の切口から腐りやすく、太い枝を切ると木が衰弱する原因となります。大木となつてから枝を切らないよう、植え付けてから5年目までの間に将来の樹形をつくるための剪定を行いましょう。

②剪定の基本

1. 剪定する枝



A. ひこばえや台芽

地際から伸びている枝は台木から出ている枝が多く、切らないと栄養がこの枝の方に集中してしまいます。

B. ふところ枝及びびからみ枝

他の枝に絡むように伸び、風によってこすれ傷ができたり、折れたりして腐朽が入り込みやすくなります。

C. 胴ぶき枝及び地面から1.5m～2.0mまでの枝

木が成長しても枝の位置は変わらないので、将来、通行の障害になる1.5～2.0m以下の枝は早めに剪定します。

D. さかさ枝

異形な樹形になってしまう可能性がありますので切り落とします。

※. 枯れ枝など

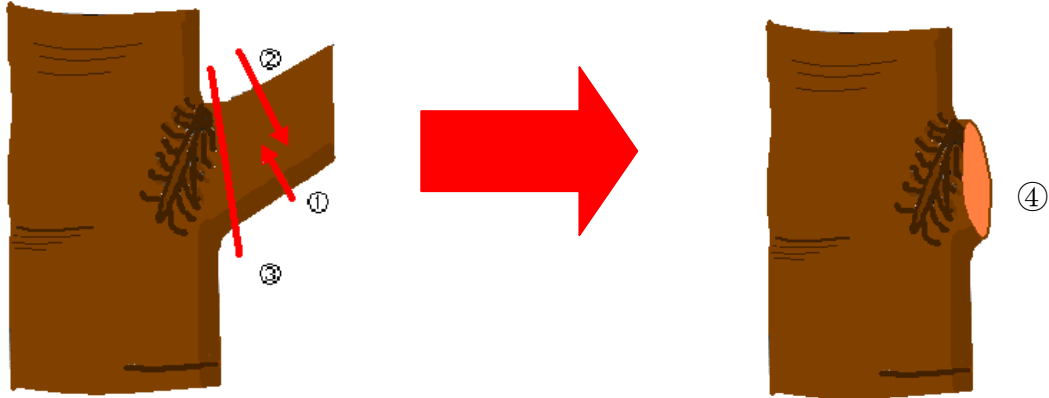
景観上もよくありませんし、健全な枝の空間面積を狭くしてしまいます。

2. 剪定する時期

落葉後の11月～3月上旬に行います。

3. 方法

- ・ 剪定バサミで切れる太さの枝のうちに切るようにしましょう。
- ・ 500 円玉以上の太さの枝は以下に示す手順で切り、切り口には必ず傷口の保護剤を塗布します。



太い枝を切る手順

- ① 切る枝の下側に約 1/3 程度切れ目を入れる
- ② 上から枝を切り落とす
- ③ えりを残して幹に沿って切り口が平らになるように再度切る
- ④ 切り口に保護剤を塗る

4. 不適切な剪定例

枝を途中で切ると(写真①)、そこから腐朽菌が侵入して太枝や幹の腐朽が進み(写真②)、樹勢に悪影響をあたえるのでやめましょう。



Ⅲ. 桜の育て方

2) 除 草

雑草を放置すると日陰になったり、養水分を奪われたり、病害虫の住処となって成育が阻害されます。苗木が小さい間は特に早目に対処しましょう。

①対処期間



・新芽の芽吹く時期から落葉期まで、左の状態になる前に早目に対応しましょう。

②注意点

○つる草の除去



クズなどのつる草は桜の樹を覆って日陰にしてしまい、成育を阻害するので、早目に根から除去しましょう。

○機械での草刈り



苗木を誤って切らないように根元の草を取ってから、その周りを機械で刈りましょう。

③マルチング



・刈った草は根元に敷く(マルチング)と乾燥防止や次の草の成長抑制効果があります。

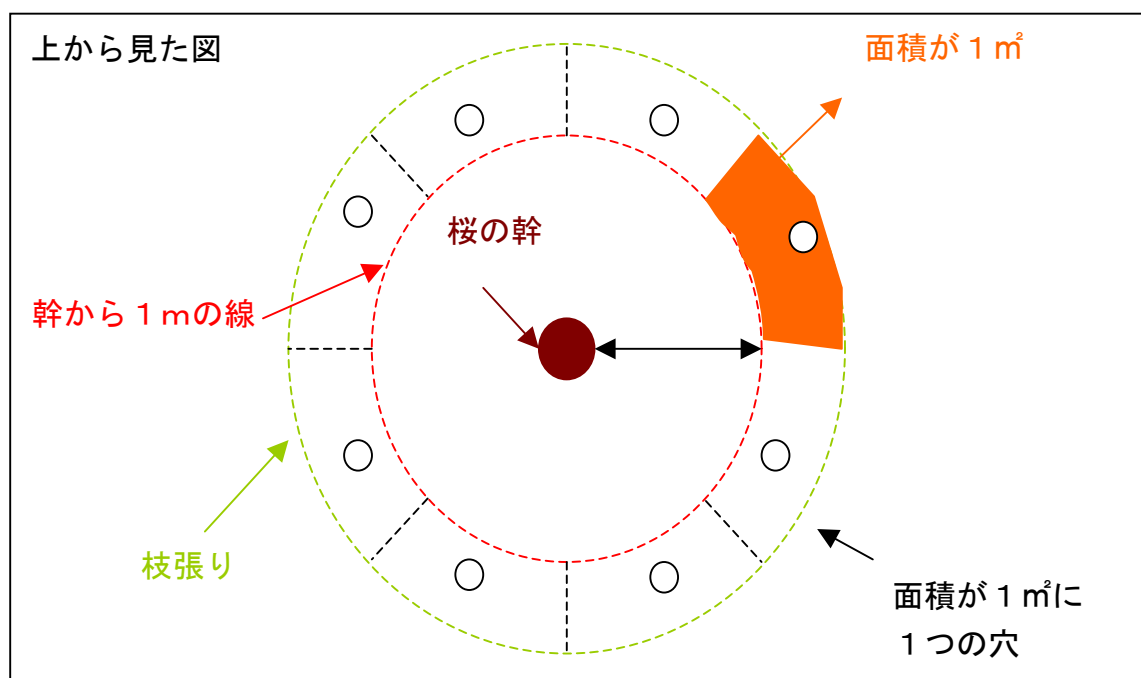
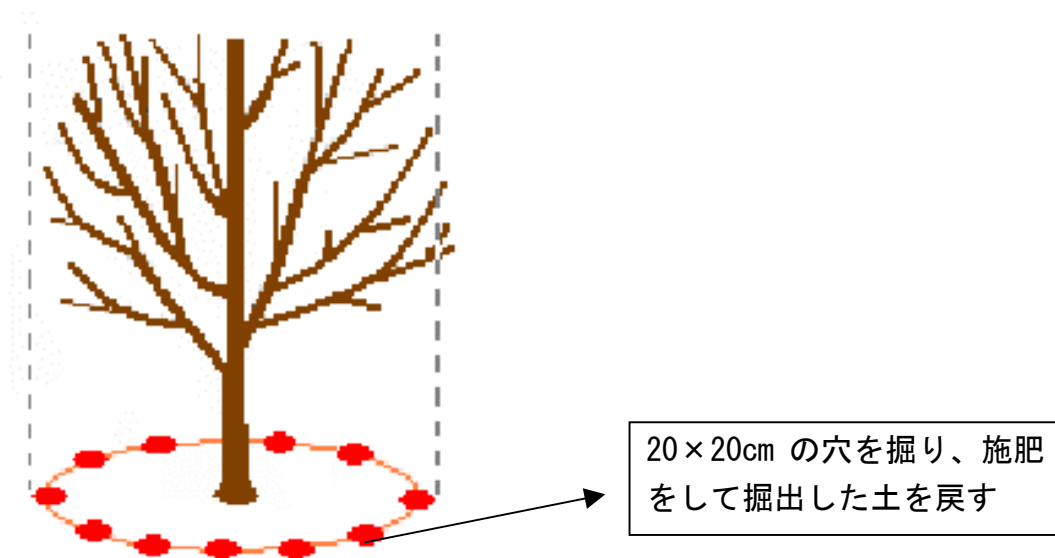
Ⅲ. 桜の育て方

3) 施肥

①寒肥

落葉期間中に、市販されている固形肥料や有機質肥料の袋に記載されている基準量を施してください。目安としては壺方式で1㎡に1つの穴を掘り、肥料（N-P-K 10-10-10）200～300gを入れて掘り出した土を埋め戻して下さい。

②施肥方法



IV. 健康診断

IV. 健康診断

植栽後6年以上が経過した桜は1年に1度、夏期に健康診断をして、樹勢に悪影響を与える点がみられたら早めに対応していきましょう。桜の健康状態を把握して早めに対処することも、管理上重要な作業内容の一つです。下記のチェックポイントを参考に皆さんの桜の健康診断を試みましょう。

1. 植栽間隔の再確認

将来、過密な成育環境にならないよう、広めに植えてありますか。間隔が狭いときには早めに、間引きや移植を実施しましょう。

2. 個々の健康状態をみる

下記の状態になっている木は、樹勢が衰退しています。衰退の原因には、水はけが悪いため根腐れや、土中の栄養不足、病害虫の被害が考えられますので、専門家に相談の上、適切な対策を施してください。



木の上部の枝が枯れ、下部から胴ぶき枝が伸びてくる。



木の根元から上を見上げて、空が透けてみえるぐらい葉の量が少ない。

枝の先端にだけ、玉状に固まって開花する

梅雨時の雨が多いときでも、葉が写真のように丸まっている



9月上旬頃に、周辺の桜より早く、落葉してしまう。

V. 病虫害防除

V. 病害虫防除

1) 重要病害虫防除

① コスカシバ

1. 被害の発生状況

5～9月に発生した成虫は樹幹の傷などに産卵します。幼虫は産卵後2週間ぐらいで孵化し、樹皮下に穿入します。穿入した幼虫はそのまま冬越し、翌年成虫になるまで形成層を食害します。そのため樹皮が荒れ、胴枯れ病などを起こして徐々に衰弱していきます。

[コスカシバの被害を受けている幹の状況]



幼虫が出している虫糞



虫糞と樹脂（ヤニ）が混じった状態

成虫が5月中旬から9月まで発生して産卵するため、幼虫の大きさはさまざまですが、体長約20mmとなります。



幹を食害する幼虫



成虫の翅は透明で胴体は黒褐色、一見スズメバチに似ています。



成虫

2. 防除方法

①薬剤による防除

落葉期、コスカシバの被害部にMEP乳剤などを散布または塗布します。5～9月に成虫が樹幹に産卵するため、この期間中、他の害虫防除のために薬剤を散布することがある場合、樹幹にも散布しておくことで防除効果があります。

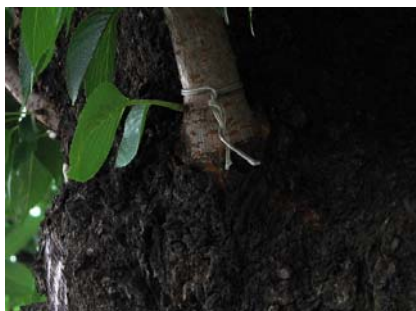
②性フェロモン剤の利用

- ・フェロモントラップ



粘着性シートと性フェロモン剤を組み合わせ、匂いに誘引された雄成虫を捕殺します。

- ・交信かく乱剤



性フェロモン剤（商品名：スカシバコン）を枝などに巻きつけて、コスカシバの交信（交尾）をかく乱して繁殖を阻害します。

②サクラてんぐ巣病

1. 被害の発生状況

カビの一種が原因で発生する伝染病で、病気にかかった枝についての葉の裏面に形成された病原菌の胞子が、空気中に飛んで感染していきます。感染すると枝が異常に発生して、花が咲かなくなる病気です。放置しておくとう感染した枝はやがて衰弱し、枯死してしまいます。（赤丸で囲んだところが病気の部分です）

開花時期の様子



染井吉野の場合、病気にかかった枝は、開花時に葉が出るのでよく目立ちます。

2. 防除方法・予防方法

現時点では薬剤での防除方法が確立されていないため、病巣部を切除するしか有効な対策はありません。作業は落葉期間中に行います。1度の除去作業では取り残しなどがあるため、最低3年間は継続して除去作業を行うことが重要です。桜の中でも染井吉野は感染しやすい品種なので、周辺にこの病気にかかった桜がある場合にはこの品種を避けることや、病巣部の切除作業が出来ない場所には植えないことも一つの方法です。



サクラてんぐ巣病は、病気が発生した初期（写真左）に切除すると効果的に予防できますが、放置しておくとう病気の枝だらけになってしまいます（写真右）。

V. 病害虫防除

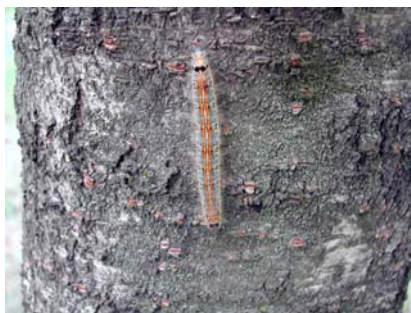
2) 害虫防除

ケムシ類による葉の食害で桜が枯死することはありませんが、桜の成育には悪い影響を与えます。

主なケムシ類では、孵化したての頃は一箇所に集中して棲息しているので、早期発見を心掛け、幼虫が分散する前に手の届くところは発生個所を摘み取り、摘み取れない場所にスポット的に殺虫剤を散布すれば、散布量が少量ですむため環境等への負担を少なく出来ます。

農薬の使用に当たっては、販売店に害虫に適する薬剤をお問合せの上、使用方法を守って使用してください。

①オビカレハ



成虫は5月頃に年1回発生します。卵は細い枝に糸を巻きつけたような卵塊として産み付けられ、若齢幼虫は天まく状の網に集団で生活します。分散前の幼虫発見を心掛け駆除します。

(薬剤での防除)

4～5月、幼虫が分散する前に散布。

②アメリカシロヒトリ



成虫は7～9月に年2～3回発生します。サナギで越冬し、1～2カ月で成虫になります。幼虫は極めて雑食性で、桜の葉がなくなると他の草木に被害をもたらします。発生初期は天まく状の網を枝先に作るの、見つけたら幼虫が分散する前に除去します。

(薬剤での防除)

6～9月、幼虫が分散する前に散布。

③モンクロシャチホコ



成虫は8～9月に1回発生します、幼虫は黒っぽく、頭と尻をさらず習性からシリアゲケムシともいわれます。若齢幼虫は葉の裏側に黒い集団で棲息します。

(薬剤での防除)

7～9月、幼虫が分散する前に散布。

④アブラムシ類



4～6月にかけて発生し、サクラフシアブラムシ（左）は葉の表面などにこぶをつくり、その中に集団でいます。サクラコブアブラムシ（右）は枝先の葉が縮れて淡赤紫色になりその中に集団でいます。

(薬剤での防除)

5月頃の発生初期に散布。

⑤カイガラムシ類



メス成虫



9月に羽化したオス

孵化幼虫は5～9月に2～3回現れ、冬場は白く丸い殻に閉じこもります。半日陰の風通しの悪いところの枝や幹に寄生し樹液を吸うので、多発すると木が衰弱します。白い殻を見つけたらブラシ等でこすり取り、その部分の周りの枝を剪定して風通しをよくします。

(薬剤での防除)

冬期の休眠期に薬剤を桜全体に散布します。4～9月に行う他の害虫防除の薬剤散布時に、枝や幹にも散布すると効果的です。

V. 病虫害防除

3) 病害防除

ここで取り上げたのは伝染性が強いため、そのままにしておくと、桜の衰退につながる病気です。花の時以外にも桜の樹を観察して早期発見、早期防除に努めることが大切です。そのようにすれば被害を最小限に抑えることが可能な上、農薬による防除でも環境等への負担を少なく出来ます。なお、農薬の使用に当たっては、販売店に病気に適する薬剤をお問合せの上、使用方法を守って使用してください。

①幼果菌核病



カビの一種が原因で起こる伝染病で、開花、開葉期に発生し、新葉、葉、新枝、果実が侵されます。この病気の被害部は、急激に軟化、腐敗し、被害がひどい場合には、枝先まで枯れて樹勢を衰えさせます。

(防除・予防方法)

被害が少ない内に枯れた患部を切り取り、焼却処分します。被害部が拡大した場合は、芽が出る直前に農薬を散布します。

②こうやく病



病原菌はカビの一種でカイガラムシ類と共生して繁殖し、5～6月ごろ、この膜の表面に胞子を生じ感染します。枝や幹の表面に、灰白色や赤茶色の膜が形成されます。この膜は菌糸が集まったもので、これが多発すると樹勢が衰えます。

(防除・予防方法)

ブラシ等でこすり落とすか、薬剤を発生部に塗布します。また、カイガラムシ類を駆除し、剪定を行って通風、日当りを良くします。薬剤は桜の休眠期に散布します。

③ならたけ病及びならたけもどき病



ナラタケ



ナラタケモドキ

ならたけ菌が根や根元の傷口から侵入し、樹皮下の形成層部分を侵して、夏場に突如葉がしおれ始め、枯死に至らしめます。

(防除・予防方法)

防除方法は確立されておらず、被害を受けて枯死した木は病気の伝染源となるので、根を残さず除去します。また、桜の樹勢が衰えると被害を受けやすくなるため根元を踏み固めないようにし、施肥をするなど樹勢の維持、向上に努めましょう。

④根頭癌腫病



根にコブが発生する病気で、急速に枯れることはありませんが、患部が肥大すると樹勢が衰えます。

(防除・予防方法)

防除方法は確立されておらず、患部を取り除いても再発することが多い病気です。被害を受けて枯死した木は、根を残さず除去します。患部の摘出自体が難しいので、土壌を良好にすることで樹木を健全にし、患部を肥大しにくくします。また、桜の樹勢が衰えると被害を受けやすくなるため根元を踏み固めないようにし、施肥をするなど樹勢の維持、向上に努めましょう。

VI. 鳥獸害防除

VI. 鳥獣害対策

1) ノウサギとノネズミの被害と予防

日本花の会 桜調査委員会委員 松枝 章

1. ノウサギ

桜の苗木を植栽してから1～3年の間に被害が多く見られます。植栽当初の場合は、地際から全体を食べられたり、先端部を噛み摂られたりすることが多いので、激害となります。被害を受けてからでは手遅れとなることから、生息が予想される場所ではあらかじめ、予防対策をしましょう。少数の場合は幹に新聞紙や藁などを巻きつけても予防出来ます。多数の場合は、農薬販売店にて市販されている忌避剤（チウラム剤やジラム剤、アスファルト剤など）の適応薬剤を聞いて、塗布または散布をすることが一番効果的です。

2. ノネズミ

根元に乾燥防止目的で多くの敷き藁を施用したり、クローバーなどの植栽をすると冬期の住処・餌場を提供することになり、桜の根まで食害を受けることが多くなります。被害が多発する場合は、殺鼠剤を撒きネズミの密度を下げるようにします。その上で予防したい場合は農薬販売店にて市販されている忌避剤（チウラム剤やジラム剤、アスファルト乳剤など）の適応薬剤を聞いて、塗布または散布をすることが一番効果的です。

3. 被害部位の処置

食害によって剥皮されたり、梢端を切断された場合は、腐朽を防ぐためすみやかに保護剤を塗布します。

VI. 鳥獣害対策

2) ウソの被害と予防



ウソという野鳥による桜の花芽の食害では、被害が甚だしい場合には、ウソがとまれない枝先を除く、ほぼ全ての花芽が食害されてしまい、開花期になっても花が咲かないため鑑賞性が著しく低下してしまいます。ウソは、夏季は亜高山帯に生息していますが積雪期になると低山帯に移動し、桜や梅などの花芽を食害します。移動してくる時期は地域や年によって変動がありますが12月末から3月上旬頃にかけてです。食害の発生は、ウソがついばんだ花芽の殻が桜の木の下に散らばるので、それによって確認することが出来ます。予防方法は、食害が確認できたら、忌避剤としてベフラン塗布剤（イミノクタジミン酢酸塩）15倍液を散布すると効果的です。散布方法としては、枝幹上に雪が付着していない晴天時に枝先まで薬液がかかるように十分に散布します。



枝先まで花を咲かせる染井吉野も右側の写真のように、ウソによって花芽を食害されてしまうと観賞価値が無くなってしまいます。

VI. 鳥獣害対策

3) シカの被害と予防

日本花の会 桜の名所づくりアドバイザー 鶴田 誠

シカの被害は北海道、岩手県、北関東、兵庫県、九州で発生しています。シカは桜の新芽を食害するため、樹が枯れてしまうことはありませんが、新芽が伸びてくると繰り返し食べられるために成長することが出来ません。また、直径3cm位の樹幹の皮を剥ぎ、幹を傷つけることもあります。



シカの被害を受けてへし折られた枝
食害するのは普通、口が届く1.7m位まで

シカは桜を餌として非常に好むため、このような場所ではシカ害により、名所をつくることは出来ません。予防対策としてはネットやフェンスを設置して、物理的にシカの侵入を遮蔽する方法が効果的です。なお、シカはフェンスを飛び越えて侵入するよりは、下から潜り込んでくることが多いので注意が必要です。



桜植栽地の周囲をフェンスで囲み侵入を防いでいます